

引き継がれる平和への思い、語り継ぐべきこと

1 対象学年 小学校4年生（国語科）

2 単元名 役わりをいしきしながら話し合おう 「クラスみんなで決めるには」

3 ねらい

2022年2月24日、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を始めた。その情勢は、各種メディアで取り上げられており、悲惨な映像を誰もが目にするようになった。平和な暮らしが一瞬にして奪われてしまうということが、改めてわたくしたちに突き付けられた。

終戦から75年以上が経ち、戦争体験者が減少するとともに、平和への意識が薄れつつある。戦場へ出た体験や疎開先での暮らし、戦後の街の様子など、戦争にかかわる悲惨な生活について、調べようと思わなければ情報を手にすることができない。このまま時が進んでいけば、いつしか戦争について、その悲惨な生活が忘れ去られてしまうかもしれない。平和な世の中を続けていくためには、戦争を自分事としてとらえ、受け継いでいこうとする気持ちをもつことが大切である。戦争についてすすんで学び、語り継いでいこうとする児童を育てるために、本実践を進める。

学習指導要領に示された本単元にかかわる指導事項は以下の通りである。

〈知識・技能〉

(2)イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し、使うこと。

〈思考力、判断力、表現力等〉 「A 話すこと・聞くこと」

ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

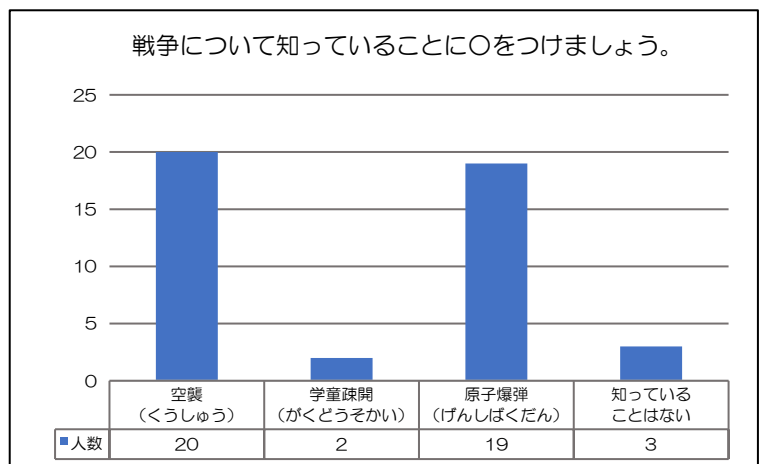
オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

本単元では、日常生活の中から話し合う話題を決め、自分の意見をもつために集めた材料を比較したり分類したりすることや、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら話したり聞いたりし、自分の考えをまとめることを目標としている。指導目標を達成するために、まずは児童にとって話しやすいであろう身近な題材を取り上げ、話し合い活動を行う。次に、話す・聞く力の定着や向上を目的に、発展課題として戦争を題材に取り上げる。

事前に、児童30人に対し、戦争についての理解度をはかるためにアンケートに取り組んだ。

（資料1）空襲や原子爆弾について「知っている」と回答した児童が7割近くいたものの、学童疎開について「知っている」と回答した児童は少なかった。そのため、戦争の恐ろしさやつらさについての理解が十分とは言い難い。本単元の発展課題では、まず空襲や原子爆弾、学童疎開について学び、戦争生活のつらさを想像させたい。その後、「平和な世の中を続けるために伝えたいこと」について考えを深めさせることで、平和な世の中を維持していこうとする気持ちや調べたことを身近な人に伝えようとする気持ちを高めたい。

資料1 【児童のアンケート結果】



4 指導計画（9時間完了）

次	時間	学習活動
第1次	1	○ 本単元の学習課題を確認し、学習の見通しを立てる。 ○ 話し合うときに気を付けることをまとめる。
第2次	2	○ 日常生活の中から話題を決め、話し合うための材料を集める。
第3次	3	○ 桃太郎について、進行に沿って話し合いをする。話し合いを振り返り、よかったところや気を付けるところを伝え合う。
	4	○ 運動会について、進行に沿って話し合いをする。話し合いを振り返り、よかったところや気を付けるところを伝え合う。
	5	○ 戦争について知り、詳しく調べようとする気持ちを高める。 資料A NHK 戦争証言アーカイブス『空襲』（7分20秒） 資料B NHK 戦争証言アーカイブス『学童疎開』（5分20秒）
	6	○ 戦争について、話し合うための材料を集める。 資料C 戦争体験記『焼け跡に立つ虹』（『電柱から血が』『わが家が焼ける』『名古屋大空襲』『おばあちゃんの戦争体験』『銃後の苦しかった生活』『学童疎開』）
	7	○ 戦争について、話し合うための材料を集める。 ○ 平和な世の中を続けるために伝えたいことをまとめる。
	8	○ 話し合いの仕方の振り返りをもとに、話し合う。グループで平和な世の中を続けるために伝えたいことについて話し合い、自分の考えをまとめる。
	9	○ 前時の活動を振り返るとともに、単元の学習を振り返る。

5 実践のまとめ

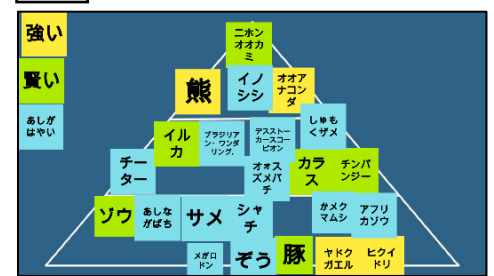
(1) 第1～4時「身近な題材について話し合う」

はじめに、3回の話し合い活動をふまえて、話し合う力を高めていくことを児童に伝えた。児童には、身近な題材として、「最強の桃太郎軍団にするためのお供としてふさわしい動物は何か」「運動会にむけて、クラスのキャッチフレーズをどんなものにするか」を提示した。話し合うときには、司会、記録、時間、発表といった役割を分担し、共通点や相違点に注目しながら話し合うように指導した。

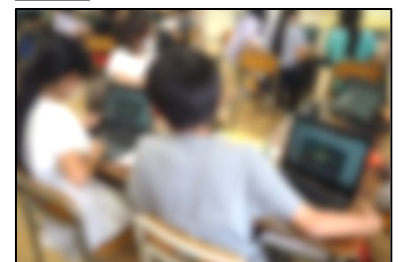
1回目の話し合いでは、「桃太郎」を題材にし、事前に動物を調べたうえで活動を行った。調べ学習では、すすんでタブレット端末を使って動物を調べ、お供として連れていきたい動物を自分なりに考えていた。話し合いでは、Google Jamboardの付箋機能や思考ツールを活用しながら、活発に意見を伝え合う姿が見られた。（資料2）その後に行った振り返りで児童は「みんな意見が言えていた」とよかった点をあげたものの、「意見がばらばらでまとまらなかった」「ワールドカフェ形式で話し合うときに、他の班の情報をうまく聞き取れなかった」「時計系の役割が果たせなかった」といったことを反省点としてあげた。2回目の話し合いにむけ、それらの対策を話し合ったところ、「早めに共通点を考えたほうがいい」「ワールドカフェ形式で話し合うときには、タブレット端末やノートを持っていくといい」「時計系のタブレット端末をタイマーとして机の上に置いておくといい」といった改善案が出された。

2回目の話し合いでは「運動会」を題材とし、改善案をふまえて活動を行った。前時の改善案を意識して話し合いをしたことにより、以前よりさらに活発な話し合いができた。（資料3）児童自身、話し合いの力の向上を実感しており、振り返りでは、「前回よりスムーズに話し合いができた」という意見が多数あがった。しかし、あるグループから、「時間内に話し合いが終えられなかった」という反省点があがった。（資料4）

資料2 【話し合い中の Google Jamboard】



資料3 【児童の話し合いの様子】



その他のグループの児童から、「司会係が意見を出し合う時間、意見を分類する時間、考えをまとめる時間を話し合いのはじめに提示するとよいのではないか」という意見があがったため、3回目の話し合いでは、司会係が時間を管理することになった。

資料4 【児童の振り返りシート】

国語ワークシート 10月5日		話し合いでうまくいったこと・うまくいかなかったこと	いいね!
番号	氏名	意見	
		うまくいったこと 一回目の話し合いより意見がスムーズに言えた。みんなで話し合っ一つのスローガンを決めることができた。ワールドカフェで他の班の意見を取り入れることができた。前、うまく行かなかった記録係の仕事もわかりやすくまとめることができた。 うまくいかなかったこと 悩む時間を取りすぎて制限時間内に終わらなかった。時間を確認せずに話を進めてしまった。	👍 9
		話し合いで、うまくいったこと、スムーズにできた。うまくいかなかったこと、最初、役割を、忘れて役割が、できなかった。	👍 1
		話し合いでうまく行ったことは、みんながすぐに付箋に自分で考えた標語を、書いてくれたのがいいところだと思いました😊 1回目よりも、2回目の方がスムーズにできていた😊	👍 2
		1回目とくらべて、2回目の方がうまく話し合いができた。 他のはんに、自分のはんの意見をくわしく伝えられなかった。	👍 1
		たくさんの方がうまくいった 《例》司会がスラスラと話を進めていった。みんな意見をたくさんいっていた。Jamboardでしっかりまとめられていた。ワールドカフェの情報収集もうまくいった。 うまくいかなかったこと 悩む時間が長すぎて、制限時間までに終わらなかった。	👍 6

(2) 第5時「戦争について、詳しく調べようとする気持ちを高める」

はじめに、「今は平和だと感じますか」「これからも平和は続くと思いますか」と問い掛けた。児童からは、「今は平和と感じる」「これからも平和は続いていくと思う」という意見があがった。一方、「他国からのミサイルが心配だ」「これからも戦争に巻き込まれるかもしれない」という意見があがるなど、戦争に対して不安視している声もあった。

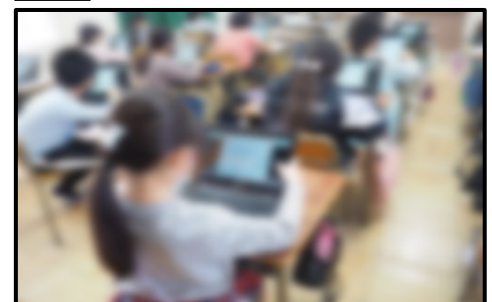
次に、「これからも平和な世の中を続けるためにはどうすればよいと思いますか」と問い掛けた。児童からは、「戦争について詳しく知ることが大切」「他の国と仲良くする」「攻撃されてもやり返さない」「みんなが戦争をしてはいけないという気持ちをもつ」などの意見が出された。戦争について調べたいという意欲が高まったところで、学習課題を「戦争について調べて、〇〇に伝えよう」とし、学習を進めた。「〇〇」については、児童それぞれに伝えたい相手を選ばせた。

戦争について、被害の程度を想像できない児童が多かったため、本時の終わりに、NHK 戦争証言アーカイブスの『空襲』『学童疎開』の映像を視聴した。『空襲』の映像視聴では、爆弾の衝撃に驚きの声があがるとともに、その悲惨さから、教室内が静まり返っていった。『学童疎開』の映像視聴では、「昔にはこんな悲しいことがあったんだ」「戦争って怖いな」とつぶやく姿があった。児童は、戦争当時の映像を観て、衝撃を受けていた。

(3) 第6、7時「戦争について調べる」

第6時では、まず、戦争体験記『焼け跡に立つ虹』の6作品について、グループ内で分担して、知らない言葉や調べてみたいことを探す活動を行った。(資料5) この際、『焼け跡に立つ虹』の抜粋資料をGoogle Classroomに投稿した。『焼け跡に立つ虹』を読んでいく中で、「こんな生活は嫌だ」「この時代に生まれなくてよかった」と、多くの児童が今の生活と比較し、戦争の悲惨さを改めて感じていた。調べたい言葉をノートにまとめたところ、戦争中の食べ物や武器などがあげられた。(資料6)

資料5 【『焼け跡に立つ虹』を読む児童の様子】

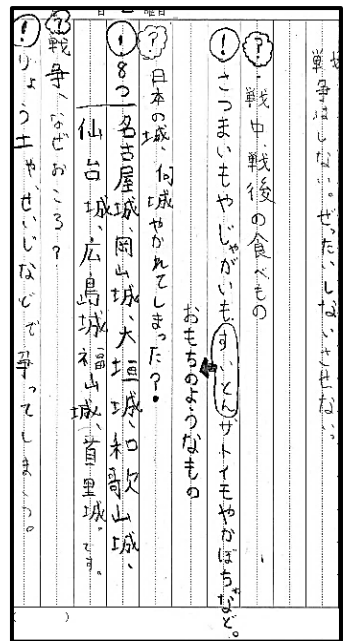


その後に行った調べ学習では、タブレット端末を使い、調べたいことをインターネットですすんで調べて

いけるようにした。その際に、参考となるインターネットサイトを一覧で示した。(参考サイト:「昭和館」「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」「しがけんバーチャル平和祈念館」「札幌市平和バーチャル資料館」「オンラインミュージアム 戦争と静岡」「広島平和記念資料館 平和データベース」「キッズ平和ながさき」) 児童は、これらのサイトの他にも、各々調べたいキーワードを検索し、調べた。調べていく中で、『焼け跡に立つ虹』の他の作品を読みたい」と発言する児童がいたため、『焼け跡に立つ虹』の他の抜粋資料を Google Classroom に投稿した。また、本を使って調べたいと言う児童がいたため、物語や図鑑のような形式の本も用意した。

第7時の終末では、児童それぞれが戦争について伝えたい相手を決め、平和な世の中を続けるために伝えたいことをまとめた。児童は、「お母さんに戦争の武器について教えたい」「友達に戦争中の食べ物を知りたい」など、伝えたい相手として主に家族や友達をあげ、戦争中に使われていた武器や食料について伝えたいと意見を書き出していた。(資料7) しかし、半数以上の児童が武器や食料について、具体的にどのようなことを伝えるかを書くことができなかった。

資料6 【児童のノート】



資料7 【児童が記載したシート】

国語ワークシート 10月14日		平和な世の中を続けるために、〇〇に伝えたいこと
番号	氏名	意見
		お母さんに戦争の爆弾や、武器を伝えたい。
		お父さんに、ご飯の代わりにじゃがいもやかぼちゃと草を食べて生きていたことを伝えたい。
		お母さんに、戦死より戦争餓死で死んだ人が、60%(6割140万人)が死んでいるということを伝えたい。

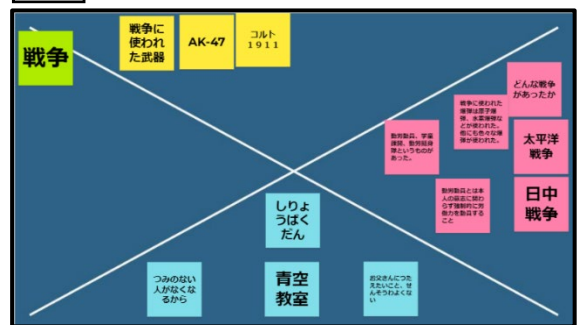
(4) 第8時「戦争について話し合う」

前時までに調べた内容をふまえ、平和な世の中を続けるために、誰に何を伝えたいかを話し合った。児童は、グループごとに、Google Jamboard の背景に思考ツールを設定して話し合いを始めた。はじめに、X チャートを選ぶグループが多く、各々付箋の色を分けながら、意見を出し合っていた。(資料8) 武器や食料についての付箋が多かったものの、戦争当時の病気のことや、死者数、学童疎開や防空訓練についての付箋もあった。

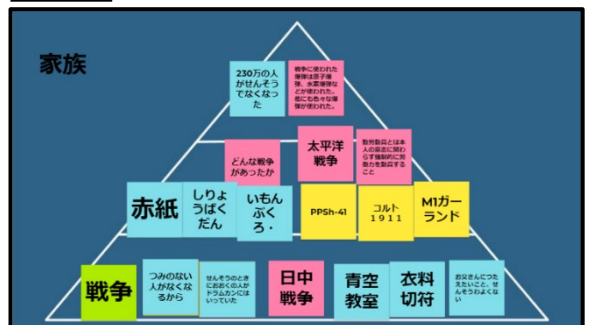
次に、背景をピラミッドチャートに変更して、何を伝えるべきかをグループでまとめた。(資料9) その後、ワールドカフェ形式で、他のグループと意見交換することで、新たな情報が多かったようで、戦争に対する視点を広げることができた。

各グループの発表では、家族や友達、低学年を対象に、「400万人近くの人々が亡くなったことを伝えるといいんじゃないか」「当時は、食料がなかったので、配給以外で物々交換をしていたことを伝えたい」「学校では、授業ではなく、竹槍訓練や防空訓練をしていたことを伝えると驚くんじゃないか」「空襲の被害を抑えるために、夜は

資料8 【話し合い中の Google Jamboard】



資料9 【話し合い後の Google Jamboard】



電気を消して暮らしていたこと。空襲を避けて、防空壕に避難しても死者が出ていたことを伝えたい」という意見があがった。

全体交流後、平和な世の中を続けるために、誰に何を伝えたいかについて、個人で意見をまとめさせた。話し合い前と話し合い後の児童の意見を比べたところ、伝えたい内容の深まりや、変化が見られた。(資料 10)

資料 10 【話し合い前後の児童の記述】

平和な世の中を続けるために、〇〇に伝えたいこと	平和な世の中を続けるために、〇〇に伝えたいこと
友達に、空襲となぜ爆弾打つ人がいるか、戦争中の食べ物これらのを友達に教えて自分たちが大きくなってなくなってるように思っで教えたいです。「なぜ友達に教えるかは、まだ小さいから、今度大きくなったときに他の子に教えられるようにしたいから例えば班の低学年とかに教えたいです。」	お母さんに日本軍が使っていた、武器についてと日本人は死者がどんなにでたのか話したいです。
平和な世の中を続けるために、〇〇に伝えたいこと (話し合い後)	平和な世の中を続けるために、〇〇に伝えたいこと (話し合い後)
平和な世の中を続けていくために友達や低学年に伝えたくて空襲や戦争で230万人の人がなくなったことか原爆がおとされて多くの人がなくなったり食料が足りず私物と交換していたり学校で武器の練習を毎日していたりそんな苦しい生活を昔小さい人や大人もしていたから今度から一切しないように友達や低学年に教えてあげたいです。	私は、家族・友達に戦争中の食料について話したいです。食料は戦争中では大切だし、人間にも大切だと思うからです。戦争中の人たちは食料を着物に変えたりしていたので、今は食料がなくなることはないから戦争中はそれが当たり前じゃなかったことを、知ってほしい戦争は大変ということを実感してほしいです。

(5) 第9時「単元を振り返る」

単元のまとめとして、話し合いの仕方や戦争について、振り返りをした。児童からは、戦争に関して、「調べていくにつれて、どんどん怖くなっていった」「戦争の苦しさは想像をはるかに超えていた」「戦争はやってはいけないという気持ちが増した」「まだ食料のことしか調べていないので、他にも調べたい」という意見があがった。(資料 11)

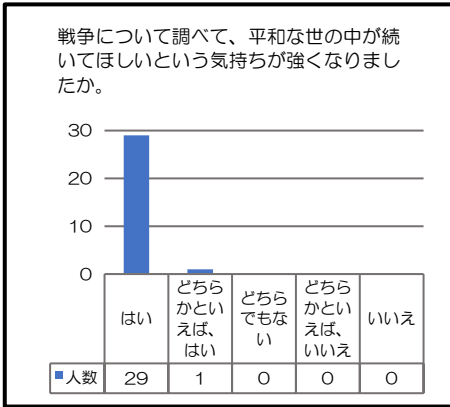
また、戦争に関する事後アンケートも実施した。「戦争について調べて、平和な世の中が続いてほしいと思いましたが」という質問に対して、29人の児童が「はい」と回答した。(資料 12) 次に、「戦争について、もっと調べたいと思いましたが」という質問に対して、15人が「はい」、11人が「どちらかといえば、はい」と回答した。(資料 13) 最後に、「戦争について、他の人に伝えたいと思いましたが」という質問に対して、22人の児童が「はい」、7人の児童が「どちらかといえば、はい」と回答した。(資料 14)

戦争について、新たなことを知れば知るほど、児童は戦争への考えを深めていった。そして、多くの児童が戦争について関心をもち、平和な世の中を続けるために自分が調べたことを周りの人へ伝えたいと考えるようになった。

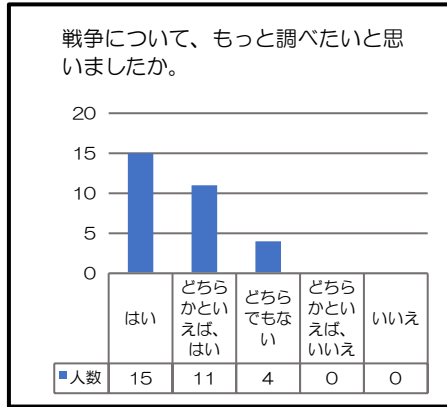
資料 11 【単元の終末での児童の戦争についての考え】

国語ワークシート 10月19日		戦争について、自分の考えをまとめましょう。	いいね!
番号	氏名	意見	
		戦争は恐ろしいなと思いました。もともと戦争はこわいなと思っていましたが、調べていくにつれ、戦争に使われた爆弾の破壊力が分かったり、使われた武器も分かったり、恐ろしさが増したので気をつけたいという気持ちもこれまでよりも出たので、家族や近所の人にも気をつけなきゃ。という気持ちにさせるためにも他の人に知らせなきゃなと思いました。まだ私にもわからない事があるので調べてまた話したりしたいなと思いました。私達は戦争について調べた戦争の恐ろしさは分かったけど、このことを忘れてる人が戦争を起こすんだな。と思いました。戦争はだめなことだとよく考えればわかるものだと思うので、戦争を起こしている人にやっていいことかどうかを考えてもらえば、きっと戦争はなくなると思います。	👍 1
		戦争は、たくさんの、銃を使っていたんだなと思いました。戦争のときの食べ物、こんなに少ないのがわかった。	👍 0
		戦争は、とてもだめなことだと思います。理由は、爆弾で、多くの人が、死んでしまって、どんなに小さい子でも、爆弾で死んじゃったり、栄養が取れなくて死んじゃったり、生まれてすぐ死んじゃうかもれないからです。多くの人が、死んで、生き残った人でも、お母さんやお父さん、兄弟が死んじゃって、悲しい思いをしているのに、戦争を続けてたんだと思うと、とても悲しいです。悲しいおもいをさせたくないなと思いました。	👍 1

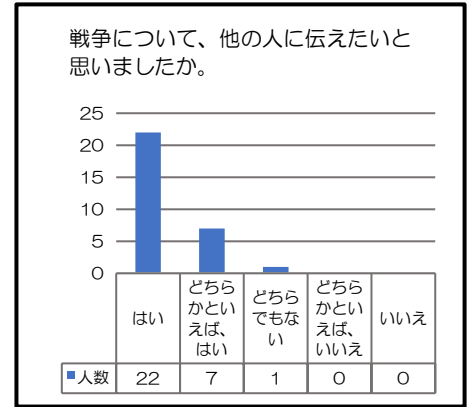
資料 12 【事後アンケート結果】



資料 13 【事後アンケート結果】



資料 14 【事後アンケート結果】



6 実践の成果と今後の課題

本実践では、国語科の単元「役わりをいしきしながら話し合おう」の発展課題として戦争を題材に取り上げ、平和教育を行った。話し合い活動を繰り返し行い、反省点を洗い出すことで、児童の話し合う力を向上させることができた。多くの児童が、話し合う力の向上を実感しており、単元の振り返りのときに自分の成長について書くことができた。

戦争についての予備知識が少なかった児童は、映像資料を見たり体験記を読んだりすることで、「戦争って怖い」「この時代に生まれなくてよかった」とつぶやくようになった。視覚に訴える資料は、戦争の悲惨な状況を理解するのに有効な手立てとなった。また、『焼け跡に立つ虹』を読むことで児童は、はじめて知る言葉に触れ、自分が調べたい言葉やテーマを見つけることができた。

調べ学習では、インターネットサイトに登場する言葉や文章が難しく、内容を理解できなかった児童がいたため、図書館の本も活用した。調べ学習をする際の手法や支援の仕方について吟味するとともに、時数に柔軟性をもたせる必要があると感じた。

話し合い活動の際には、グループ内での話し合いだけでなく、ワールドカフェ形式で、グループ相互の交流を促すことで、戦争に対する見方や考え方を深めたり、広げたりすることができた。話し合い前の児童の意見と話し合い後の児童の意見を比べると、伝えたい内容の深まりが多くみられ、他者と意見を交流することのよさが感じられた。

実践前から、「戦争をしてはいけない」「戦争は恐ろしいものだ」という考えを児童はもっていた。しかし、事前アンケートからも分かるように、児童の戦争に関する知識は乏しい。戦争について詳しく調べ、実態を知った児童は、単元の終末で、「調べていくにつれて、どんどん怖くなっていった」「戦争の苦しさは想像をはるかに超えていた」「戦争はやってはいけないという気持ちが増した」という意見をあげた。戦争について知れば知るほど、平和な世の中が続いてほしいと願う児童の気持ちは高まっていったと考えられる。

事後アンケートの結果では、8割以上の児童が「戦争について、もっと調べたい」と回答している。戦争にかかわる悲惨な生活について触れた児童は、今の平和な世の中を続けていかなければいけないという認識を強くし、さらに学びを深めたいと思っている。この児童の心に芽生えた思いを持続させるためには、今後も平和について触れる機会を設定することが重要である。本実践のように、各教科で単元計画を組んで実施したり、総合的な学習の時間を活用したりすることができると考えられる。また、1時間の授業を構成することが難しい場合においても、各教科の授業で平和について触れたり、朝の会や帰りの会で教師が平和についての話をしたりすることで、児童が平和に触れる機会を確保できると考える。

その他にも、アンケート結果から、ほとんどの児童が「戦争について、他の人に伝えたい」と思っていることが分かった。本実践では、戦争について伝えたい相手を設定して意見をまとめた。今後、平和について伝える場を設定し、誰かに伝える活動を通して、戦争を語り継ぎ、平和を維持していこうとする意識を高めたい。